

(社)日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第 87 回 レベル 1PRA 分科会 議事録

1. 日時 第 87 回 : 2018 年 7 月 10 日 (火) 13:30~17:00

2. 場所 電力中央研究所大手町地区 734 会議室

3. 出席者

(出席委員) 高田主査, 桐本副主査, 橋本幹事, 佐藤 (吉), 岡野, 石田, 岩谷, 喜多,
小谷, 佐藤 (輝), 黒岩, 小森, 谷口 (13 名)
(常時参加者) 友澤, 根岸, 島崎, 三浦, 塩田 (5 名)
(傍聴者) 佐藤 (遼) (1 名)

(敬称略)

4. 配布資料

- P4SC-87-1 第 86 回 L1PRA 分科会議事録 (案)
- P4SC-87-2 人事について
- P4SC-87-3-1 内の事象 L1PRA 標準 議論検討用
- P4SC-87-3-2 適用可能な手順及び実施例 議論検討用
- P4SC-87-3-3 内の事象 L1PRA 標準 英文版 (Draft for Review)
- P4SC-87-4 統合性能化標準案の中間報告に向けて

5. 議事内容

(1) 出席者/資料確認

委員 13 名が出席しており, 分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。
また, 配布された資料が確認された。

(2) 第 86 回議事録の確認

資料 P4SC-87-1 を用いて第 86 回分科会の議事録を確認した。コメントがあれば連絡いただくこととし, 特になければこのまま正式版とすることとなった。

(3) 人事について

資料 P4SC-87-2 により, 田中委員 (関西電力) の退任, 福井常時参加者 (関西電力) の解除が報告され, 新たに谷川委員 (関西電力) の選任, 竹次常時参加者 (関西電力) の登録が承認された。

(4) L1PRA 標準統合性能化検討

資料 P4SC-87-3-1 から資料 P4SC-87-3-3 により、L1PRA 標準統合性能化の箇条構成について検討を行なった。前回議論の反映を確認し、主な議論は以下のとおり。

・全般

- －手法の適用に関する規定振りとして「〇〇〇法の適用が可能であり」で統一し、「次に示す」などの付帯する文言の使用が適切でない場合は削除する。
- －故障機器の復旧に関する規定が、システム解析と人間信頼性解析で重複しており、人間信頼性解析では具体的な扱いが難しいため記述は削除とし、システム解析とパラメータの範疇とする。また、パラメータにおいて「適切に評価」の具体的な要件について技術レポートなども含めて明確化を検討する。
- －用語として主に「緩和」「回復」「復旧」が現状使われているため、共通用語の定義、JIS での定義案なども参考として、各々の具体例と合わせて定義を整理していく。
- －不確実さ解析での基事象の相関など個々の規定振りに関しては、評価の実施可能性も含めて確認・調整していく。

・箇条 11 人間信頼性解析

- －起因事象に含まれる人的過誤の定量化における単位の規定については、起因事象側においてまず規定し、人的過誤側でそれと整合させる構成とする。これにより人的過誤の定量化においては用語として「頻度」を使用しない規定振りとする。
- －人的過誤確率の一貫性の確認において、確認が 2 方法合わせて規定されているため、各々の実施内容・対象等がより明確になるよう規定振りを整理する。

・箇条 12 パラメータの作成

- －パラメータ推定に関する実施基準との関係について再確認し、基本的に現状の規定振りとしていく。

・箇条 13 事故シーケンスの定量化

- －従来標準で附属書（規定）となっている部分について、規定内容により本体規定として整理し直す。内容によっては技術レポートにも反映する。
- －感度解析の実施要件において、PRA の目的に応じた実施とする旨を追記する。
- －感度解析の簡略評価に関する規定は、既に実効性を失っているため削除する。

(5) スケジュール、その他

資料 P4SC-87-4 により、L1PRA 標準統合性能化の中間報告の進め方について確認した。資料の整備を進め、次回分科会で議論・確認していくこととなった。

次回分科会は 8 月 27 日 PM の予定。次々回の分科会は 9 月 26～28 日で調整していく。

以上